

新建・寺子屋 (モダニズムの研究) 244 報告

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；
—藤森著『日本の近代建築』の分析—第 10 回

2017. 7.19

話：三沢浩

■ 寺子屋 244 は 8 人の参加で開催されました。

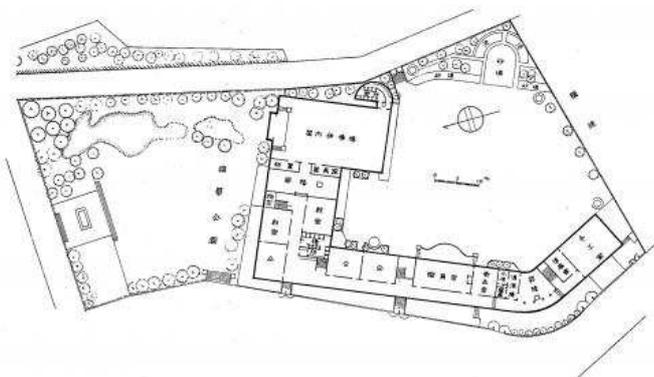
■ 日本の近代が始まって以来、主に様式などの形態思想を移入してきましたが、その底流には「社会」概念の確立とそこでの課題、例えば公衆衛生や不良住宅地区改良などの課題への取り組みがなされてきました。



竹芝小学校



泰明小学校



錦華小学校

錦華小学校の配置図

■ そうした社会的視線が初めて表に出てきたのが「社会政策派」の登場であり、関東大震災からの復興建築に結晶します。耐震耐火の小学校と公園との連結などは、社会思想と建築計画論との明快な一体化でした。

新建・寺子屋(モダニズムの研究)244

近代建築を多角的に検討／モダニズム建築文献再読；

2017年6月21日(水) 話：三沢浩

—藤森著『日本の近代建築』の分析—第10回

1. 前回のスライドIVの補足(藤森の著書について)

- 1) 北海道の銀行建築、郵船ビル
- 2) 東北にある盛美園、第五十九銀行(現青森銀行記念館)
- 3) 辰野の下で長野宇平治が
- 4) 山口半六の仕事と奏楽堂と小島憲之
- 5) 横河民輔のいろいろと岡田信一郎のいろいろ

2. 今回のスライドVの特徴

- 1) 日本の新感覚派、自由様式とは何か(下巻 P102)
- 2) 早稲田の佐藤功一に加えて東大の内田、岸田
- 3) 安井武雄の仕事について、拡大
- 4) 庭園美術館(ラパン)の部分的摂取
- 5) 石本の仕事、高橋貞太郎の近代文学館を加える

3. 社会政策派(P123)のとり上げについて

- 1) 佐野、内田、内藤(多仲)の構造、防火政策、例として「看板建築」
- 2) 震災復興計画のいろいろ、田園調布のまちづくり
- 3) 昭和通りと墨田川東のまちづくり
- 4) ユニークな小学校と公園の一体化(浅草、深川、上野)
- 5) 復興小学校づくり(東京市)の近代性について

4. 同潤会の活発な働きについて

- 1) 深川猿江町の共同住宅のこと(下巻 P150)
- 2) 同潤会の住宅群のいろいろ
- 3) スライドでみる鶯谷アパートと江戸川アパート
- 4) 同潤会アパートのその後の経過

次回 <寺子屋 245> ■近代建築を多角的に検討■モダニズム建築に関する著作再読
藤森照信著『日本の近代建築』の研究—第 11 回

話：三沢浩

2017年9月20日(第3水曜日定例) PM 7:15~

(8月はお盆休みにかかるためお休みします。9月から再開です)

場所：新宿区水道町 2-8 長島ビル2階(江戸川橋駅神楽坂駅徒歩5分)

会費：400円

問合せ：大崎元 (有)建築工房匠屋 VED03705@nifty.com